



立教大学校友会

<https://rikkyo.yokohama>

横浜立教会 会報

2022年（秋）

発行人：大橋 英五
編集人：楠本 健司
横浜立教会発行

新型コロナの「パンデミックの終わりが見えてきた」(WHO)との発言がある一方、わが国の感染者数は高止まりの傾向にあり、元の生活に戻るにはまだまだ時間がかかりそうです。とは言えコロナとうまく付き合いつつ、社会生活を行うこともこれからの課題になることでしょう。3年ぶりにクリスマス会を開催することになりましたが、感染リスクに気をつけながら、各種行事に取り組みたいものです。前号に引き続き、私の趣味と新会員の紹介を中心に取り上げました。私の趣味欄への投稿をお待ちしています。

私の趣味

今回は定年退職後から始めてスケッチ歴17年の小野 遵一（おの ゆきかず）さんをご紹介します。ご覧の通り素晴らしい作品をお描きになっています。スケッチの魅力、コロナ禍でのご苦労、スケッチを始めてみたい方へのアドバイス等を語っていただきました。これから定年退職を迎える方々には大いに参考になりそうです。



稲村ヶ崎海岸写生会にて

小野 遵一 1967年（昭和42年）
法学部法律学科卒

○スケッチを始めたきっかけからお聞かせください—。

定年退職後のことです。“亭主元気で留守がいい”の妻は戸塚女性フォーラムの生活工房をよく利用していましたが、会場では「第1回彩歩の会展覧会」が開催中でした。妻は創立者の森山昭彦画伯の作品・人柄を気に入り、「明日夫を連れて来ます」と勝手に約束。結果、絵は中学生以来描いたことがなく不安でいっぱいでしたが、森山先生と面談して、その人柄に引かれ、入会の決断をしました。仕事一本で無趣味であった私は、入会し早や17年経ち仲間たちと楽しく絵を描いています。今では妻に感謝でいっぱいです。



佃一丁目の老舗

○題材としてはどのようなものが多いのでしょうか—。

旅行で感動した風景、散歩途中での見慣れた景色、庭や道端での花や草等、私たちの周りには素晴らしい風景や彩りが多々あります。これらを淡彩・水彩スケッチで楽しむ風景スケッチです。スケッチ現場に持って行くために画材道具は軽くてコンパクトなものを選び、画用紙サイズもF4に統一しています。

○所属する彩歩の会について教えてください—。

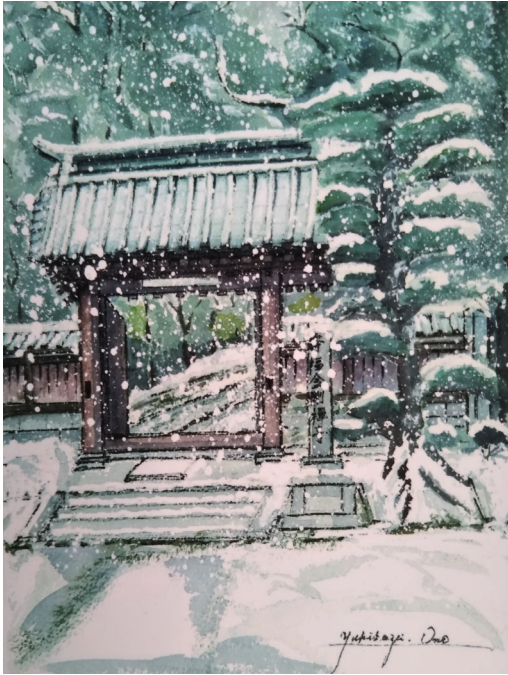
会員が自主運営で行い、「彩歩の会同好会」と更なる研鑽を図るために「彩歩研究会」を設けています。男女半々の40名の会員が活動しており、会員相互の交流懇親を深めて、豊かで生きがいある生活設計の一助となることを共有目的としています。

新入会員は、私と同様中学生時代以来描いたことがない人や他のサークルで活動経験豊かな人が入り混じった構成となっています。長い活動の中で“継続は力なり”を感じながら、元気でいられるうちは仲間たちと描き続けようと思っています。

展覧会を開催しますと、1000人以上のご来場者にご高覧いただくとともに叱咤激励をいただき、励みとなります。また、出品作の販売ポストカードも2000枚以上ご購入いただき、その収益を社会慈善事業として寄付する社会貢献への喜びも味わっています。



自由が丘のベニス



壽福金剛禅寺(鎌倉)

との意思疎通を図ってきましたが、現在はその心配もなく計画通りに活動しています。

野外活動ですので、天候に左右され当日の実施判断も悩みの種の一つです。

宿泊を伴う写生旅行や懇親会等はまだ中止しています。もう一つ深刻な問題として、同種サークル同様、講師や会員の高齢化が進み会の解散に追い込まれたり、退会者の増加や定年年齢の延長、展覧会の中止などによって新会員が減少し、会の継続が危惧される昨今です。

○これから始めたい人へのアドバイスをお聞かせくださいー。

下手だからトライしないと初めから言う人が多いですね。今だから言えますが、私の経験からも描き方の手順・方程式があり、目線、正体線、消失点、遠近法等を習得すると3ヶ月、6ヶ月、9ヶ月、1年と節目ごとに驚くほどに上達していきます。

後は、着彩段階でのぼかし、にじみ、混色、スパッタリング等のテクニックを習熟したり、向上心の強弱により、大きく飛躍する絵が描けるか否かになります。水彩画は油絵と違い一回の塗り損じも許されず、表現方法は無限大です。見た目よりも奥深いから面白いのです。

興味ある方、どの様な活動をしているのか知りたい方は、体験教室に参加してから入会を判断されても構いません。入会直後は、講師3人が交互に個人指導をしてくれます。また、アドバイザーや先輩会員も親切に教えてくれますよ。入会ご希望の方は、連絡をお待ちしております。



モスタルの石橋 (ボスニア・ヘルツェゴビナ)

○スケッチの魅力はどこにありますかー。

屋外へ出向き携帯に便利な道具一式を携え、自然に身を委ねて集中する事3~4時間で描き上げる事ができます。特に光と影が表現のポイントとなり、講師の指導を受けます。その場で、講師から作品の講評がありますが、他会員の作品も観て勉強になります。日頃の生活の中で漠然と見過ごしていた景色が、ディテールに魅力的に捉えるようになるのも再発見の喜びです。

水彩人口も多く、展覧会も至る所で開催されていますが、問題意識を持って鑑賞するにつれ審美眼が養われます。パソコン上やYouTubeでも研鑽機会は多々あります。どのジャンルでも上には上があるもので、高みを目指すには何事も

“No pain, no gain”のごとくですね。

気に入った作品は、アングル選びから着彩まで思い通りに仕上がった作品です。こうした作品は展覧会に出品し、ポストカードにしています。

○コロナ禍等で苦勞されていることはありますかー。

活動が制限されて計画運営ができないことから休講せざるを得ず、会員のモチベーションの維持に腐心しました。このため、会の運営や水彩技術面に関する「雑談通信」を送って会員



映り込む思い出(スペイン)

○展覧会開催の予定はありますかー。

コロナ禍で昨年・今年と2年連続展覧会を中止せざるを得ませんでした。次回は2023年2月9日~14日の6日間の予定です。場所は横浜馬車道アートギャラリー7Fです。招待ハガキをご希望の方は、事前にご連絡いただければ手配致します。年1回の展覧会ですが、直近になりましたら、読売新聞、朝日新聞等に開催記事が掲載される予定です。ご来場を心よりお待ちしております。

(彩歩の会入会及び招待ハガキご希望の方は、横浜立教会ホームページの「お問い合わせ」からお申し込みください)

新会員の紹介

(9月までの入会者です)

渋谷 正明 1990年(平成2年) 社会学部観光学科卒
飯塚 幸子 1992年(平成4年) 理学部化学科卒
小幡 朱里 2013年(平成25年) 文学部フランス文学専修卒



江川 浩 1968年(昭和43年) 経済学部 経済学科卒

- 学生生活:少し身体が悪く、一学年を留年し、五年かかって卒業しました。
- 現況:無職で年金生活者です。
- 趣味:昔はプラモデル制作。今はプロ野球観戦(広島カープファン)。パチンコ通い。
- 会への希望:六大学野球をもう一度観戦したい。

三枝 保子(旧姓高橋) 1977年(昭和52年) 文学部ドイツ文学科卒

○学生生活ですが、入学当時から学生運動の余波が立教にも流れ、授業中に学生が流れ込んできて「オルグ」があり、試験はほとんどレポートでしたが、クラスメイトと試験合宿を兼ねた旅行をしたりコンパをしたり…。自由で楽しい4年間でした。いまだにホームカミングデーには仲間が集まって食事会をしています。

○現在は新聞社に勤務していますが、年内退職します。フリータイムが多くなるため貴会の様々なイベントに参加したいと思っています。

○何もしないでダラダラしているのが好きですが、健康のため20年ほどジムに通っておりダンスやヨガで気分転換しています。今は膝腰を痛めて休止していますが、下手の横好きのゴルフも好きです。

○立教のホームカミングデーには毎年行っており、出店ブースを覗いて楽しそうだと羨ましく見ていました。イベント企画が多ければ参加もしやすいと思います。また、徐々にですが、お手伝いできることがありましたらさせていただきたいと思っています。



星名 隆 1985年(昭和60年) 法学部法学科卒

○学生時代は、アイビーウォールというテニスサークルに所属しておりました。そこで、今に至るまで付き合いが続く良き友人達と出会い、楽しく充実した学生生活を送ることができました。

○自動車業界で長らく仕事をしてまいりました。海外に関わる機会が多く、赴任地のドイツでは立教会に入り多くの校友の方々と交流を満喫しました。還暦を迎えたのを機に転職し、今年から新たなキャリアをスタートしたところです。旅が好きで、特に訪れた先で美味しいものに巡り合うことに大なる喜びを感じておりましたが、コロナ禍で頻度が減ってしまいました。一刻も早く、気兼ねなく旅行ができるように祈念する今日この頃です。

○趣味は、数年前に始めたゴルフの上達を目指しておりますが、迷宮に入り込んでいます。

○立教会への希望ですが、地元横浜(神奈川区)で校友の方々とのお付き合いを広げたいと存じますので、宜しく願い申し上げます。



新会員の紹介

河野 貴光 1990年(平成2年) 経済学部経済学科卒

○学生時代は競技スキーサークル「スープリームスキークラブ」に所属しておりました。シーズンの12月から3月まで(1月の試験期間除く)は、冬山に籠もってスキーに明け暮れる日々でした。当時、映画「私をスキーに連れてって」の公開もあり、今では考えられないほど、スキー場は盛況でした。横浜立教会会長の大橋先生に顧問になっていただいたお陰で、公認サークルになりました。

○ゼミは、大橋先生の経営分析のゼミに所属し、4月から11月までは一生懸命勉強しておりました(?)。

○卒業後は、株式会社横浜銀行に入行し、法人営業を中心に最後は人財部で出向を担当しておりました。そして2022年9月より出向、セコム株式会社神奈川本部に所属し営業支援を行なっております。

○趣味は、旅行、うまくありませんがゴルフを少々です。

○会への希望は特にございませんが、お世話になった大橋先生が会長にも関わらず、入会が遅くなったため、先に入会しているサークル同期の森川君や、ゼミの清治先輩に色々とお教えいただき、何か少しでも会に貢献できればと思います。どうぞ皆様、よろしくお願い致します。



反町 理絵 1991年(平成3年) 社会学部社会学科卒

○学生時代は、奈良県からの上京で、ミッチェル館に4年間在住していました。横浜立教会にミッチェル館の方がいらっしゃいましたら、その旨お声かけいただければ嬉しく思います。

○大学卒業後早くに結婚したため、子供たちも長女はアラサーと、それぞれ結婚や就職で親元を離れました。第二の自分自身の人生のスタートです。

○現在は、趣味と実益を兼ねて、ランドマークタワー高層階にて、横浜ならではの眺望を楽しみながら、お客様方と接客の仕事を通して、有意義な楽しいひと時を過ごさせていただいています。

○それらの勤務のため、なかなか会への参加は難しいのですが、日々働くだけでなく視野を広げ、できるだけ機会を見つけて、懐かしく親しみのおける立教同窓生の皆さまとともに、教養を深めさせていただけたらと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



新会員の紹介



大村 悠 2014年(平成26年) 文学部文学科フランス文学
専修卒

○学生生活ですが、硬式野球部に所属していたので、とにかく野球の毎日。志木で一人暮らしをして、野球では新座キャンパス、授業では池袋キャンパスに通って、立教大学を満喫しました。今でもつながっている仲間がいることが一番の財産です。

○卒業後は旅行会社に就職して新潟へ。その後、国会議員の秘書を経て、今は神奈川県議会議員として働いています。教育、観光、スポーツなどを特に力を入れて活動し、子ども向けのイベントの開催や地元魅力発信にも取り組んでいます。皆様と一緒に仕事や活動ができれば嬉しいです。

○趣味はモルック、漫画を読むこと、お酒を飲むこと。モルックはチームをつくって活動していますので興味ある方はぜひ一緒にやりましょう！

*モルックはフィンランド発祥の棒を投げてピンを狙う棒倒しのスポーツ。

○会への希望ですが、生活をしている中で立教大学出身の方とお会いできた時、すごく嬉しいです。同世代の友だちや先輩後輩など、世代が違う皆さまとの繋がりができたらなと思って参加しました。まだ参加されていない方も参加しやすいような会になるように、できることをやっていきたいと思っています。よろしくをお願いします！



神奈川県校友の集い開催

校友会主催による「神奈川県校友の集い」が7月16日(土)5年ぶりにパシフィコ横浜会議センターで開催されました。講演会800名、懇親会200名の参加がありました。



「神奈川県校友の集い」に幹事の一人として参加の一日
竹内 豊(昭和48年経卒)

コロナ禍の中で開かれる講演会、立教関係者中心とはいえ一般の人たちの参加もあるので、天候とともに、来場参加者の数、整理警備・セキュリティーなども幹事関係者は心配しましたが、天候がイマイチだったのが却って幸いしたのか、来場者の出足はゆっくりめ。が、講演会が始まる頃には、8割を超える参加者で会場は埋まり好盛況となって安堵しました。

池上氏の公開講演会も、ジャーナリストとしては喫緊の前週に起きた“元首相襲撃事件”とその背景に触れない訳にはゆかず、冒頭この事に15分ほどを費やしてから巧みに本題に進み、“コロナ禍”“ウクライナ報道”の裏話なども交えて、普段のテレビ画面では中々味わえない、ライブ講演会ならではの“お得感”のある講演でした。

続いての「校友の集い」も久しぶりの対面開催の“集い”となり、こちらも県内各地区から多くの校友が参加して盛況、楽しい親睦のひとときの時間を過ごしました。

その後、横浜駅西口に店を構える2000年法卒・北迫照喜氏経営「北浜」で幹事・関係者有志の、“お疲れさん会”にも参加、立教大校友として有意義な一日となりました。



**「校友の集い」の詳細は当会のホームページをご覧ください。竹内幹事のルポを掲載しています。



横浜の秋を大佛次郎とジャズで



秋の横浜を「ぶらり博物館・美術館」と「聴く会」のコラボで、一日楽しんできました。山手の大佛次郎記念館では、「JAZZが聞こえる大佛次郎の昭和モダン」展示。昭和初期戦前の横浜・東京を舞台とする小説と大佛夫妻のモダンなライフスタイルから、



ジャズが聞こえてくる雰囲気での展示でした。元町、関内、みなとみらい、伊勢佐木町地区では、「JAZZ PROMENADE」の世界で、街角ライブの生演奏を楽しみました。最後は、中華街の古いライブレストラン、ウィンドジャマーでジャズを聴きながら、名物キャプテンス・バーガーと美味しいアルコールで締めました。

「聴く会」担当幹事 楠本 健司 「ぶらり博物館・美術館」担当幹事 木村 欣照

ホームカミングデーに出店



10月16日(日)、ホームカミングデーが、「55年ぶりの箱根駅伝出場」で盛り上がる立教キャンパスで、3年ぶりに開催されました。オープンマーケットのあちら、こちらで旧友の輪が出来、再会を楽しんでました。横浜立教会としては初出店です。



横浜駅ジョイナスB1にて日本料理「北浜」を運営する北迫さんを中心に、角さん望月さん達若手の

メンバーで準備を進め、生ビールと焼きおにぎりを販売いたしました。「北浜」の立教女性アルバイトの和服姿と、その場で焼く、焼きおにぎりの匂いにつられ、売れ行きよく、完売でした。今回は、販売個数を増やそう、焼き鳥も、など、来年の話も出てました。お手伝いの皆さんお疲れさまでした。



立教スポーツを応援しよう



おめでとう「箱根路」本選出場！55年ぶり箱根を立教が走ります。皆さん応援しましょう。春秋、神宮の森へ東京六大学野球など、伝統ある立教スポーツを観戦、応援してます。横浜立教会ホームページで、正月の箱根駅伝はもちろん、六大学野球、立教スポーツ応援観戦を募集します 皆様の参加を期待しています。

「立教スポーツを応援する会」
幹事 中山 裕



編集後記

会員の定年後の生活に対する関心の高さを感じます。会報がそうした経験交流の場になれば幸いです。合わせて現役世代の仕事に関する話題も取り上げていくことも大切です。今後会報の増ページや発行回数の検討も含めて、より充実した紙面にしていきたいです。